

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	認知症高齢者の人工肛門造設後における経過についての後ろ向き調査 ～人工肛門管理・便破棄主義の獲得・退院先・社会資源について～ [倫理審査受付番号：第 4445 号]
研究責任者氏名	内園 真佐司
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	2023年7月4日 ～ 2024年11月1日
研究の対象	以下に該当する患者さんを研究対象とします。
	疾患名：認知症ケアチームが介入した患者さんのうち大腸癌等により人工肛門を造設した方 / 診療科名等：下部消化管外科・IBD 外科
	受診日：西暦 2019年 4月 1日～2023年 3月 31日
研究に用いる 試料・情報の種類	試料等 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート その他()
	取得の方法： <input checked="" type="checkbox"/> 診療の過程で取得 その他()
研究目的・意義	<p>今後 40 年は認知症高齢者の人数は増加し続けると言われています。当院においても認知症高齢者の方の入院も増えています。また、高齢で認知症があっても手術を行う症例も増加傾向にあります。</p> <p>その中で、認知症高齢者で人工肛門を作った方のその後の経過については症例発表が主で、まとまった報告はありません。</p> <p>認知症の方が人工肛門を作った場合に、便廃棄の手技の獲得が困難であったり、人工肛門の管理が困難であったりして、本人が望む場所への退院が難しい場合があります。</p> <p>認知症高齢者の方が人工肛門の管理に関する手技の獲得ができれば、認知症高齢者の方が人工肛門を作ったとしても住み慣れた地域での生活を続ける事ができると思います。</p> <p>認知症高齢者の方が人工肛門の管理に関する手技の獲得するにあたり、効果的な方法を検討する予定をしています。そこで、今回当院の認知症ケアチ</p>

	<p>ムが介入した認知症高齢者で人工肛門を作った方の情報を集め現状を正しく把握したうえで分析し、今後行う方法論の比較検討するデータとしていく予定にしています。</p>
<p>研究の方法</p>	<p>認知症ケアチームが介入をした患者さんの中で、人工肛門を作った方のカルテを確認して年齢・性別・家族構成・認知症の重症度・服薬内容・便の破棄が自分で行えたのか・ストマの交換はだれが行う予定になっているのか・使用する予定の訪問看護などの社会資源は何か・退院先はどこになったのか等の情報を集めます。</p> <p>集めた情報を分析して、今の時点での人工肛門を作った認知症高齢者の方の状況を確認します。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。</p>
<p>本研究に関する連絡先</p>	<p>診療科名等：看護部 リソースナースセンター 担当者氏名：内園 真佐司 [電話]（平日 10～16時）0798-45-6503</p>